

目標による管理

組織成果を高める運用法 職場水準に応じた展開法



かなづ 金津健治 著／  
経団連出版／  
1800円＋税

人事評価制度や経営管理の仕組みとして欠かさない「目標による管理」(目標管理)は、米国の経営学者ドラッカーがマネジメントの考え方として生み出し、一人ひとりの仕事の成果を評価する仕組みとして知られている。ところが、現実の運用については、「試行錯誤がくり返されている」ことが多いのも事実。こうした状況をふまえ、目標管理の運用に関心がある管理職に向けて、本書はまとめられた。

執筆にあたっては、目標管理の運用法をわかりやすく紹介すること、そして、職場の水準に合わせた運用法が選択できることに配慮したという。加えて、「目標・方針が徹底される」、「成果意識を醸成する」といった目標管理がもたらすメリットの紹介、著者の豊富な経験に裏打ちされたていねいな解説に加えて、運用ノウハウや具体的な手法を理解する際の手がかりとなる図表が50点以上掲載されているところなどが、本書の特徴だといえるだろう。

定年後の再雇用者に力を発揮してもらいたい人事労務担当者にとっても、目標管理の考え方は必ず参考になる。必要に応じて本書を参照しながら、自社の高齢者雇用の質的な充実にチャレンジしてみてもいいかがだろうか。

企業でキャリアにかかわる担当者に役立つ一冊

多様化する「キャリア」をめぐる心理臨床からのアプローチ

青年期から老年期までのケースに学ぶ



長尾 博 編著／  
ミネルヴァ書房／  
2400円＋税

少子高齢化、非正規雇用の増加、働き方の多様化といったキーワードのもと労働環境が大きく変化しており、若い人たちが自分のキャリアをどのように形成していくのがわかりにくくなってきている。一方、働いている人のなかにも、人間関係やストレスに悩み、メンタルヘルスに不調をきたす人も少なくない。定年後も働きたいが、希望の職を探すことができないといった悩みをかかえる高齢者もいるだろう。

本書は、日本における働き方の現状をふまえ、キャリアカウンセリングの諸理論を図表を多用してわかりやすく紹介するとともに、「はじめの仕事を体験する青年期」から「退職後、新たな働き方・生き方の道を模索する老年期」までを対象に、多くの事例をあげてキャリアアカウンセリングのあり方を説明している。例えば、経済的理由から再雇用に挑む63歳の男性がハローワークに通ってもよい職が見つからず悩んでいるケースへの対応や、「不登校」や「抑うつ」を抱えた事例などもあげられている。

専門用語には用語解説を加え、初心者にも理解しやすい内容となっている本書は、キャリアコンサルタントのみならず、企業でキャリアにかかわる担当者にも役立つ好著といえよう。

「働き方改革」実現のためのヒントが満載

働き方の問題地図

「で、どこから変える？」旧態依然の職場の常識



みづのり 沢渡あまね、奥山睦 著／  
技術評論社／  
1480円＋税

少子高齢化が進展するなか、「働き方改革」の実現が人材の面で企業の命運を左右しかねないことに異議を唱える人事労務担当者は少ないだろう。一方で、「最近、働き方が変わってきた」と実感している人は意外と少ないともいえる。本書の著者も、最近の働き方改革の盛り上がり、現実の職場との落差に違和感を抱いており、従来の常識を改め、本気で働き方を変えなければいけないとの危機感から本書をまとめた。

本書は、職場の実態に即した働き方改革を実現するためのヒントがわかりやすく示されている。とりわけ「時短勤務」や「テレワーク」など、これまではピンポイントで語られがちだった制度や施策を、「何のために」という視点から、複数の制度や施策と合わせて面でもとらえようとしているところ、そして、企業と労働者の双方に向けて、働き方改革のメリットを提示しているところに工夫が感じられる。

「正社員だけ」、「完全全社主義」、「男性主体」といった日本企業の慣行をそのまま放置すれば「一億総疲弊社会」にたどり着くという危機感を、卓越したユーモアを交えて解説していることに加え、男性・女性のいずれにも偏らない視点にも好感が持てる。